



働く

単身赴任はしらいよ②

キャスター付きのスーツケースの中には、下着数組にパジャマとワイシャツ1枚だけ。東京の人材派遣会社に勤める男性(48)は今年4月、そんな身軽ないでたちで新大阪駅に降り立った。

駅から徒歩10分。これから生活する単身赴任者専用のマンションに着くと、管理人が笑顔で出迎えた。「電気もガスもすでに開通してまですの」。部屋は約30平方メートル。部屋は約30平方メートル。ワンルームで、賃料は月7万6500円。冷蔵庫、電子レンジ、ベッド、液晶テレビ……。シャンプーなどの消耗品も用意されていた。

子どもの教育と妻の仕事の関係での単身赴任だが、毎週東京で会議があるため、「今回は長期出張の気分です」。前回の単身赴任も大阪で、家具付き専用賃貸に入居していた。「家電を買っても、単身赴任を解消する時に困る。家具付きマンションは無駄がなくていい」

部屋の掃除を月に1回、クリーニングや宅配の取り次ぎも管理人がしてくれる。

物件を仲介したのは、1996年から法人向けに単身赴任者の部屋選びをサポートしている「スウィートホーム」(大阪市北区)。社長の佐名川修さんは、「多くが多忙な管理職。女性の利用者もいます。仕事に打ち込める生活環境かどうか部屋選びの最大のポイント」と話す。家具・家電、食事付きというだけでなく、こまやかな気配りをし

てくれる管理人の物件には口コミで人気が集まる。

家具・食事・気配り付き